案内人：2774　重野忠史

平城京は710年に奈良に遷都して以降、790年に京都長岡京に遷都、794年に京都の平安京に遷都したというのが一般的理解ですが、実は740年に京都山背国 恭仁京に遷都、742年紫香楽宮に行幸、 745年に恭仁京から難波宮に遷都、さらに同年、平城京に遷都(還都) しています。
今回は、前回の平城宮跡探訪に引き続き、遷都1300年祭の中締めとして、この恭仁京跡を探訪しました。

【 コースと探訪先 】

JR加茂駅→御霊神社（旧燈明寺）→岡田鴨神社→万葉歌碑→木津川市文化財整理保管ｾﾝﾀｰ恭仁分室（ﾋﾞﾃﾞｵ、昼食）→例幣使料境目傍示石→山城国分寺塔跡→ 恭仁京大極殿跡 →朱雀井 → 兼輔歌碑→加茂駅. ランプ小屋

御霊神社

御霊神社は、JR加茂駅東口から、東方へ歩いて15分程の灯明寺山北西山麓に鎮座。
昔は燈明寺の鎮守社であった。
本殿は。奈良市の氷室神社から移された南北朝時代のもの、桧皮葺の三間社流造りで重要文化財
【御霊神】井上内親王など、7人は一般的（八所御霊神）、
　伊豫親王の代わりに吉備真備となっている。
平城京の山背、鬼門に当たる。
山背（やましろ）：平城京なら山の背後の意味
平安遷都以降は、山背が山城と変わって行く。

燈明寺　（観音寺、東明寺、燈明寺、現在は廃寺）

天明年間「拾遺都名所図会」にみる江戸末期の東明寺伽藍

現在は宝物収納庫と釣鐘のみとなっている。

現在の宝物収納庫

(燈明寺の歴史): 戦乱、天災、人心離反、復旧、保存の歴史

天平7年(735) 聖武天皇勅願**行基が開創**。観音寺と号す: 恭仁京遷都5年前

平安時代 貞観5年(863)清和天皇勅願、空海の弟子、**真暁**開基。 観音寺

建武年間兵乱で廃絶

康正年間(1455－56)天台宗の僧、**忍禅**が復興 :本堂と三重塔の建立

荒廃:応仁の乱:戦国時代約100年間

寛文3年(1663)日蓮宗の**日便**が再興、本堂と三重塔を修理

貞享5年(1688)日蓮宗の**日進**が鐘を鋳造する。現地の鐘の**鐘銘**(322年前)

寛保3年(1743)日蓮宗の日賢が三重塔を修理

18世紀:堂塔修理の為、燈籠が三井家に売却(三井家文書)

明治34年(1901)川合芳太郎が廃寺の燈明寺買収

現在:【財】川合芳次郎記念京都仏教美術保存財団:左京区仁王門 法輪院内

大正3年(1914)実業家で美術品収集家の原富太郎(号:三渓)が三重塔を横浜**三渓園**に移築

大正10年(1921)本堂が重要文化財(当時の国宝)に指定。

昭和6年(1931)三重塔が重要文化財(当時の国宝)に指定。

昭和22年(1947)本堂台風により大破。解体保存部材保存

昭和57～62年 本堂部材を**三渓園**に移動し、園内に移築

燈明寺の旧仏は収蔵庫に保管:上記川合芳次郎記念財団が年に一度、仏像他公開

鎌倉時代製作の千手観音、十一面観音、如意輪観音他

燈明寺、御霊神社のある高台(東明寺山)から、加茂盆地及び、南方の加茂駅前高層マンションの向こうに、木津川(泉河)、恭仁京域の景観を望む。

都の建設条件: **「四禽図に叶い、三山鎮めをなす」** : 陰陽五行、風水思想

岡田鴨神社

岡田鴨神社鳥居と道標

鳥居と伊勢街道道標

伊勢街道の道標:「左 いがいせ道」 天保九年九月六日建立。

下記の薬師寺橋たもとの道標より2年古い。

新川沿いの薬師寺橋の三叉路の道標には「右なら道加茂大明神」「左 いがいせ」「天保十壱年五月…」の銘が刻まれている。

和銅元年(708)元明天皇が**岡田離宮**に行幸した際に、賀茂、久仁の里の人々に稲を施したといわれる場所がこの付近。

神社の東には奈良時代の瓦窯跡が見つかっている。

岡田鴨神社:
建角身命(たけつみのみこと)を祀る。
「山城国風土記」によると
加茂氏の祖先、加茂建角身命が大和国葛城★→山城国岡田賀茂→
→鴨川を遡り→京都市上賀茂神社、下鴨神社を祀った。

★高鴨神社(御所市鴨神):金剛、葛城山麓は古代の豪族鴨族発祥の地。全国の鴨神社の総社となっている。
三間社流造りの本殿は室町時代建築として国の重要文化財

恭仁大橋北詰歌碑

今造久邇乃都者山河之清見者宇倍所知良之

今造る久邇の都は山川のさやけき見ればうべ知らすらし

大伴家持　万葉集3－1037
天平15(743)8月16日読む歌

(訳)
今、造る久迩の都は山川が清らかなのを見ると、
なるほどと頷けます。

聖武天皇も命令で、左大臣橘諸兄が中心となって
恭仁京を建設中

史跡恭仁京跡(山城国分寺跡)

木津川市教育委員会文化財保護室 文化財整理保管センター恭仁分室にて、恭仁京のビデオ学習、発掘展示物の見学。恭仁京の小冊子とビデオは大変良く出来ていて、わかりやすく勉強が出来ました。
涼しい会議室で、昼食・休憩・勉強(？)、快適でした。 感謝、感謝！

例幣使料境目傍示石

朝廷の使者として伊勢神宮と日光東照宮に派遣された人の費用を幕府が負担した。

元和6(1620)－承応2年(1653)間の藤堂藩の領地を承応2年(1653)徳川家光の命令で幕府に帰属。
現在残っている傍示石は、領地北縁に集中してるが、

南縁は耕作により消失、現存は10基
瓶原地区公民館横の碑:
例幣使料境目傍示石也　承応二癸巳正月十一日
みずのとみ(1653)

史跡　山城国分寺跡　七重塔跡　礎石

恭仁京は天平12年（740）から天平17年（745）のわずか5年で廃都され、その後、宮域は山城国分寺として再利用（746年恭仁京大極殿を国分寺に施入）、恭仁京大極殿はそのまま金堂とし、これを中心に南北3町（約330m）、東西2町半（約275m）の寺域を持っていた。

集合写真

2010. 9.15　於：史跡山城国分寺跡

7重塔跡土壇に15個の礎石が残っている。

大極殿跡（国分寺金堂跡） ←→ 比較

現在の土壇：東西60m、南北30m、高さ約1ｍ
13個の礎石据付痕跡、基壇一部、正面中央階段

2010年平城宮で復原された大極殿の建物：
建物：東西44m、南北（奥行）19.5m、高さ：27m
（基壇は盛土80cmと鉄板で遺構保護　計3.5m高

【史跡指定の経緯】

昭和32（1957）7月　山城国分寺跡
昭和48年恭仁京の区画確定
平成19年（2007）2月　追加指定名称変更
　　史跡恭仁京跡（山城国分寺跡）
平成20年（2008）7月　追加指定
　　史跡恭仁京跡（山城国分寺跡）
平成22年（2010）2月追加指定
　　史跡恭仁京跡（山城国分寺跡）
→指定からまだ日が浅い

恭仁宮の広さ：東西　560m、南北 750m	42ha
平城宮の広さ：東西1300m、南北1000m	130ha

各石碑の建立

1. 恭仁京大極殿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・恭仁小学校同窓会が建立。
2. 史跡山城国分寺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・旧加茂町建立
3. 山城国分寺址　恭仁京址・・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都府が建立
4. 三宅安兵衛の旧蹟案内石碑（昭和4年）・・・・・・・安兵衛の長男清次郎が、大正12年～昭和5年間に建立
　　現在は寝ている→文化庁から立てることにOKが出ていない。

大極殿以外の施設

恭仁小学校は、大極殿基壇の前面で大極殿院前広場にあたる。
大極殿前広場―南門―朝堂院―朝集院―朱雀門と続く
大極殿正面中央階段の遺構は、恭仁小学校との境から発見された。

発掘の状況：つい最近発掘進展。史跡指定の経緯参照：探訪当日も恭仁小学校前で発掘作業中でした。

内裏	柱列有り。埋め戻し
朝堂院	区画塀跡有り。埋め戻し
朝集殿院	区画塀跡有り。埋め戻し
朱雀門	未確認。位置としては、山崎内装工業の所
東面南門	柱穴有り。埋め戻し。大垣は、約5m高の掘立柱土塀と判明
その他の門	未確認：大垣で宮の周囲を囲む。

朱雀門と朱雀大路は何処に

万葉集では

朱雀大路：恭仁小学校から国道163号陸橋→朱雀井→木津川－上つ瀬に打橋、淀瀬に浮き橋

何処でどのように木津川（泉川）を越えたのかは？

大極殿前広場（現恭仁小学校）から

いざ、朱雀大路を南下

国道163号線恭仁小学校前跨線橋を横断、途中、朱雀門のあったとおもわれる山崎内装工業の場所を確認

朱雀井（すじゃかい）

恭仁京当時のものではなく、室町時代の土着豪族朱雀氏の井戸と言われる。

朱雀大路に面し、豪族名の起原となったのか？

この後、稲穂そよぐ田んぼ道、木津川北堤防道路恭仁大橋を渡り、JR加茂駅への帰路に着きました。

恭仁京大橋南詰　歌碑

美加乃原（みかのはら）湧きて流るる泉河

いつ見きとてか　恋しかるらむ

（意味）

瓶原から湧き出て泉河になるように、

いつ貴女を見て、こんなに恋しく想うように

なったのでしょうか？

中納言藤原兼輔　新古今和歌集11－恋1。

百人一首　No.27

大仏鉄道　：ランプ小屋

帰り電車待ちの間に

明治31年加茂-大仏間8.8km、明治32年大仏-奈良間1.1km 開通。明治40年加茂一木津—奈良間に、より平坦な現JR関西線が開通し、開業から僅か9年余で姿を消した。汽車の前照灯、尾灯、車内灯と燃料石油の保管倉庫（レンガ造り）である。

聖武天皇の彷徨 （740～745）

年号	西暦	月日	記　事
大宝元年	701		「文武天皇」と宮子（藤原不比等の娘）との間の第一皇子として誕生。
和銅3年	710	3月10日	元明天皇の御代、藤原京から平城京へ遷都。右大臣藤原不比等
霊亀2年	716		首皇子（聖武天皇）、16歳で藤原不比等の娘（母は橘宿禰三千代）安宿媛（後の光明皇后）を妻とする。
	720		720藤原不比等没、721年長屋王右大臣
神亀元年	724	2月4日	元正天皇より譲位されて第45代聖武天皇として即位。24歳。長屋王を左大臣とする。
	729		長屋王自殺
	737		藤原不比等の4子　相次ぎ病死（天然痘）
	738		橘諸兄右大臣。ブレーンに吉備真備、玄昉
天平12年	740	2月7日	難波宮行幸。この月、河内国大県郡智識寺（知識寺）に行幸し、盧舎那仏像を礼す。
		9月2日	藤原広嗣、九州で兵を起こす。（藤原広嗣の乱）
		10月29日	伊勢国へ行幸。
		12月10日	伊勢国へ行幸。
		12月14日	伊勢より美濃国を経て山城玉井頓宮に至る。
		12月15日	恭仁宮に行幸して都を作らせる。
天平13年	741	1月11日	聖武天皇伊勢太神宮及び諸社に恭仁京遷都を告げさせる。
		2月24日	国分寺・国分尼寺建立の詔を発す。
		閏3/9	平城京の兵器を甕原宮に運ばせる。
		8月28日	平城の東西二市を恭仁京へ移す
		9月8日	遷都を理由に大赦の詔 。智努王（ちぬのおおきみ）、巨勢奈弖麻呂（こせのなでまろ）の二人を造宮卿に任命
		11月11日	聖武天皇、勅して恭仁京を「大養徳恭仁大宮」と称させる。
天平14年	742	8月12日	山城国石原宮に行幸す
		8月27日	近江国信楽（紫香楽）宮に行幸す。
		9月4日	恭仁京に戻る。
		9月12日	大風雨の為、恭仁京宮中の殿舎等倒壊
		12月29日	近江国信楽（紫香楽）宮行幸。
天平15年	743	1月1日	橘諸兄を恭仁京に還らしめ、2日天皇も帰京。
		4月3日	信楽（紫香楽）宮行幸。
		7月3日	石原宮行幸。
		7月26日	信楽（紫香楽）宮行幸。
		10月15日	盧舎那仏造顕の詔を発す。
		11月2日	恭仁京へ戻る。
		12月24日	平城京の武具等を恭仁京に移す。
		12月26日	平城京の大極殿等を恭仁京に移すが、信楽（紫香楽）宮造営により恭仁京の造作を停止。
天平16年	744	閏1/1	臣下(百官)を召して、恭仁・難波二京のうち何れを都とすべきかを問う。
		閏1/11	難波宮行幸。
		2月10日	和泉宮行幸。
		2月20日	恭仁宮の御高座などを難波宮に移す。
		2月22日	河内国安曇江に行幸。
		2月24日	信楽（紫香楽）宮に行幸。
		2月26日	難波宮を皇都と定める。
		3月11日	恭仁京の大楯・槍を難波宮に運ぶ。
		4月13日	信楽（紫香楽）宮の山火事。
天平17年	745	1月1日	紫香楽宮に遷都、紫香楽宮未だ成らず。(続日本記)新京に還ると表現するが遷都の宣言はない。
		4月1日	信楽（紫香楽）京の市の西の山燃える。
		4月3日	信楽（紫香楽）京の市の東の山燃える。
		4月8日	伊賀の国の真木山燃ゆ。3～4日消えず。
		4月11日	宮城の東山に火事。聖武天皇も避難する。
		4月27日	この夜、地震、三日三晩に及ぶという。美濃国、被害甚大。
		5月3日	恭仁京を清掃。
		5月4日	聖武天皇、四大寺の衆僧を薬師寺に集め、京師（都）の選考を諮る。
		5月5日	聖武天皇、信楽（紫香楽）宮より恭仁宮に還る。民衆歓呼してこれを迎う。
		5月7日	恭仁京を清掃。
		5月10日	恭仁京の民、競って平城京に移る。信楽（紫香楽）京に人無く火未だ消えず。
		5月11日	聖武天皇平城京に行幸。諸司の官人、各々もとの司に帰る。
		8月28日	難波宮行幸。
		9月17日	難波宮にて病を得る。
		9月25日	平城京に向かい、26日宮に入る。
		12月15日	恭仁京の兵器を平城京に運ぶ。
天平18年	746	10月6日	聖武天皇・光明皇后等、金鐘寺に行幸
天平19年	747	9月29日	この日より盧舎那大仏像を鋳はじめんとす。
天平21年	749	1月14日	聖武天皇、光明皇后ら菩薩戒を受け出家す。
		2月22日	陸奥国より始めて黄金を貢（たてまつ）る。
		4月1日	東大寺に行幸し左大臣橘諸兄をして陸奥国の産金を盧舎那大仏に告げさしむ。
天平感宝元年	749	8月19日	孝謙天皇即位
天平勝宝4年	752	4月9日	大仏開眼
天平勝宝8年	756	5月2日	聖武天皇崩御